

オープン市場短信 (2004年5月)

2004.5.10

4月のCP市場動向

4月のCP新規発行額は、3兆4千億円程度(ABCP・銀行CP除く)と期落ち(2兆1,300億円)を大きく上回った。例年どおり、期末越えで発行残高を抑えた事業法人の復活発行ニーズが強かったことがその要因と言えよう。発行レートについては、これもまた例年通りであるが期末越えで残高を落とした引受金融機関が積極的に引受に臨んだことや運用難に苦しむ投資家の旺盛な購入意欲により、レートは弱含みで推移し過去最低発行レートを更新した発行体が多かった。いわゆる「官民逆転」レートが電力会社といった最上位格付けに限らず、a-1格銘柄でも確認されたほか、クレジットリスクをとって低位格付け銘柄を物色する動きも目立っていた。

銘柄別の発行レート

- 【最上位格付け銘柄】 0.005~0.008%近辺での出会い。
- 【オペ適格銘柄(a-1)】 0.01~0.01%台前半。
- 【オペ非適格銘柄(a-1)】 0.01%台前半~0.02%台近辺。
- 【ノンバンク・リース会社】 a-1+銘柄は0.01%割れ。a-1銘柄0.01%近辺~0.03%台。
- 【a-2格銘柄】 0.015%近辺での出会いから0.10%台半ばでの発行が確認されている。

CP オペ

ABCP 買切りオペは玉も少なかったためか、今月は1回だけのオファーにとどまった。4/13にオファーされ、買入れ予定額は500億円で応札額は333億円と未達になり、その内262億円が落札された。

CP 現先オペは、期日のロール分が5回実行された。3月末にABCPの大量発行があって、ディーラーのポジションが重くなっていた関係から、応札ニーズが強まり期初のオペレートは上昇した。しかし、回を追うに連れ低下し4/23スタートのオペの足切レートは0.001%まで低下した。

3月末のABCP買切りオペ残高は1,255億円、CP現先オペ残高は2兆8,214億円(内ABCP 11,410億円/短期社債1,120億円)。

現先市場

月中現先レートは、月間を通じて0.003~0.008%のレンジでの出会い。

ABCP

4月末の発行残高は、約6兆5,900億円と、前月末残から大幅に減少した。内、都銀組成のプログラムは約5兆5,200億円。

ABCPの電子CPによる発行は、3月末のオールスターファンディングが最初であったが、サムライ電子CPとしてはアストロ・キャピタル(みずほコーポレート銀行組成)が4月末に初めて発行している(103億円)。

今後も、ABCPの電子化は徐々に拡大していくと思われる。

5月のCP市場動向

5月中のCP償還は、前年同月比約1,200億円減の約2兆5千億円(銀行・ABCPを除く)。5月は賞与資金手当ての発行もあり、先月同様増加が予想される。新規発行は3兆円を上回ると見られる。

CP発行レートは、先月既に各銘柄ともに最低圏内に発行レートが低下している。今月も、大きな波乱要因は見受けられず低位安定の状態が継続するのではないかと。先月同様、短国市場レート以下のレートでの出会いとなろう。

CP オペ

ABCP買切りオペは、今月も1回の実行に終わると予想される。オペ対応玉の新規発行も少なく買現先オペに利用されていた玉程度しかオペ玉にはならないと見込まれるためである。

現先オペは、4回の期日があるが、月初のオペは4月末の大量発行を受けて応札も多く足切りレートは若干高めとなるだろう。今月は発行も多いため、足切りレートは0.001%までは低下しないのではないかと。

現先市場

月中現先レートは、T/N・S/Nともに0.003~0.007%の出会い、ターム物で0.005~0.008%近辺での出会いとなろう。

(松倉)